

# あかやま



第 **318** 号  
学校だより379号

## 世界の人たれ

PTA会長 坂本 拓三

本年度松江北高のPTA会長を仰せつかっております坂本拓三です。理数科8期で本校の卒業生であります。よろしくお願いたします。現在コロナ禍で皆様に対して十分なPTA活動ができずに忸怩たる思いであります。それでも、昨年の高等学校PTA連合会島根全国大会のお礼参りもかねて石川全国大会に参加して参りましたので報告も兼ねて文章を書いております。

全国大会初日の分科会は初等教育までにおける(家庭での)保護者等の働きかけが重要であるとの主題でした。松江北高校の生徒にとってはすでに十分に与えられておりふさわしいテーマではないかもしれませんが、一般的な教育現場での問題意識はここにあるのかもしれない。

最終日の記念講演はファミリーマート元社長の澤田氏(石川県出身)の講話で、主張は組織内でのコミュニケーションとリーダーシップがビジネスでは最重要とのことでした。

コロナ禍以前ですと全国大会1日目の夜は各県毎の交流会、2日目の夜は全体での交流会が行われ、他県や他校との意見交換や情報交換等で大変有意義な会となっていたとのことでしたが、交流会は大幅に縮小されたの大会となりすこし物足りない面がありました。来年は宮城で全国大会の予定ですがコロナ以前と同様の交流ができることを祈念しております。

さて、コロナウイルスに翻弄されたこの3年であります。前述のように現実での交流というものは大変制限された状態でありましたが他方IT技術の普及によりネットを介した交流手法が進歩したプラス面もあったと思います。在宅勤務が現実の話となり、都会と地方の立地の差がかなり縮小されてきたのではないのでしょうか?海外との交流もかなり制限される状況でしたが、我々の学生時代とはかなり異なりバーチャルの世界で

の交流が一般的になってきております。SNSで海外・国内の隔てなく情報交換・交流ができる時代になっております。我々のビジネスもよく考えると外国の方と違和感なく協調して進めるように変化しております。

ご存じのように松江北高のスクールポリシーは「世界の人たれ」であります。我々の時代は世界に飛び出そうとの意味が強かったのですが、皆様はすでに世界とつながることが容易にできる環境にいます。しかし、世界とつながる時に重要になるのが、コミュニケーションとリーダーシップ能力ですが、その際基礎学力や教養というものも大きな役割を果たします。例えば数学は実際の社会に出たら使うことがないという意見を言われる方もおられますが、会社経営の最先端ではAIやITをどのようにビジネスモデルに応用するかの勝負となっておりそこで重要になってくるのは数列、行列、統計の知識であります。また、数学で培われた論理的思考力は今後より重要な能力になることは間違いありません。私は海外で経営学の修士号をとりましたが、教養がない会話をすると相手にされなくなるケースも多いです。一方多様性が重んじられるので、皆日本のことについて知りたいと思って質問攻めになります。このような際に高校時代に得られた知識を駆使しながら会話したことが思い出されます。

そのようなことから、高校時代に(いやいやながら)学んだことが本当に有り難かったと今更になって感じます。他方高校時代にもっと勉強しておけばと後悔することもあります。

変化の早い時代に今後どのような知識が重要になるかわからない面もありますが、論理的な思考能力や基礎知識、教養が重要なことは変わりません。学生の皆さんは将来に悔いを残さないように勉学に励んでいただければと思います。

## 【普通科2年生 近畿研修】令和4年10月5日(水)~7日(金)

松江北高校の新しい魅力化の取り組みの一環として、普通科2年生が10月5日(水)から7日(金)に2泊3日で近畿研修を行いました。訪問させていただいた各事業所、各大学のご協力のおかげで生徒たちにとって大変充実した研修にすることができました。

松江北高普通科にとって初めてとなる近畿研修には大きく2つの目的があります。まず1つ目は、施設見学にとどまらず、自らの心身ともに動かすような体験プログラムや本校卒業生との交流および大学見学を含む研修全体を通して、自己の生き方在り方についての自覚を深め、価値観を上げ、将来の進路選択についてよりよく考える機会とすること、つまり「自分で学ぶ」ことです。受け身ではなく、複数のコースから自分の興味関心や、進路希望から1つ選択をして参加しました。2つ目は、集団行動を通して相互理解を深めるとともに、集団の規律や秩序を守る態度を養うことです。2年学年会では、入学時より、「3つのR」=「ルール(Rule)」、「リレーション(Relationship)」、「R……(自分で考えた)」をキーワードに、学校生活の基盤を整えるべく取り組んできました。そのことが、この研修を通して、具体的な形として表せたのではないかと考えます。また、生徒実行委員を募り準備をする中で、生徒たちが自ら「新しく自分を塗り替える(Repaint)」、「先人に敬意を払う(Respect)」という「R……」、この研修の目標を考えてくれました。準備段階からプログラムの実施の間、生徒の活躍の場面を多く取り入れ、生徒たちが「主体的に」参加する研修にすることができました。

初日は、朝7時にバス6台でクラス毎に出発しました。バス車内ではDVDを見ながら約4時間で宿泊先である大阪第一ホテルに到着しました。大阪駅のすぐそばで、ビルが乱立する立地に生徒たちは早速歓声をあげていました。大きな部屋で昼食をとったあと「2025年大阪万博プロジェクト」についてお話を伺いました。万博で新しい技術が紹介され、それが当たり前になることや高校生でも参加できる「TEAM EXPO 2025プログラム」など、自分たちの生活と万博は、実は密接に関わっていることを学びました。そのあとの「Table for Two(TFT)プログラム」では、名古屋大学の学生に「世界が抱える食問題」に学生の方が普段実行している活動について教えていただきました。後半では、大学生の方にサポートしていただきながら「高校生でも実現可能なTFTプロジェク

ト」についてグループで考えました。適切なカロリーで栄養バランスがとれ、1食につき20円の寄付ができるTFT弁当を食べた後は、大学生講話でした。近畿地方に進学した2回生3回生が16名も参加していただき、高校時代の思い出や大学生活についてたくさん教えていただきました。今後大学受験に臨む2年生たちに「できるだけ志望は高く最後まであきらめず頑張ってください」とエールを送っていただきました。

2日目は、7台のバスに分かれてコース別研修を行いました。チームビルディングコースでは、高さ8mのアスレチックコースでお互い声を掛け合いながら「自分で一歩踏み出し」て挑戦することの大切さや仲間を励ますことの大切さも学びました。生徒たちはそれぞれの体験や担当の方のお話を通して世界は広いということを感じることができ、価値観の境界を拡げることができました。夕食は大阪湾サンタマリア号に乗船しディナークルーズを楽しみました。観覧車や大阪湾の夜景をバックにそれぞれ写真を撮り楽しんでいました。

3日目は、大学見学を行いました。バス6台に分かれて京阪神の7大学9キャンパスに見学に行き、大学概要説明や学食利用、自由散策を行いました。あいにく、雨の中での見学でしたが、高校の校舎とはずいぶん違う大学のキャンパスにそれぞれ思いを馳せていました。1日目夜に実施した大学生講話と併せ、高校卒業後の姿を具体的にイメージできていたようでした。大学の見学後は万博記念公園(大阪)や清水寺(京都)などで、両手いっぱいにお土産を買う姿も見られました。

生徒たちは多くのプログラムを通して広い世界を知り、自分の将来について考え、また友人たちと楽しい時間をもち、大変充実した研修にすることができました。来年度は、コース別研修もさらに充実させ、他校では経験できない大変有意義な研修を提供する予定です。最後になりましたが、この研修旅行にご協力いただきましたすべてのみなさまに感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。





## 【理数科2年生 関東地区研修】令和4年10月5日(水)～7日(金)

10月5～7日の三日間、2年生理数科は関東地区研修を行いました。コロナ禍により、ここ2年間は中止を余儀無くされ、3年ぶりの実施となりました。

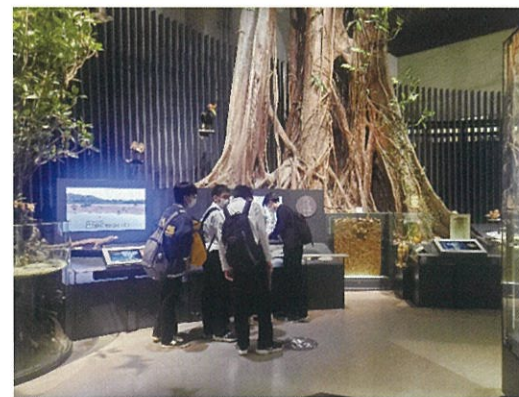
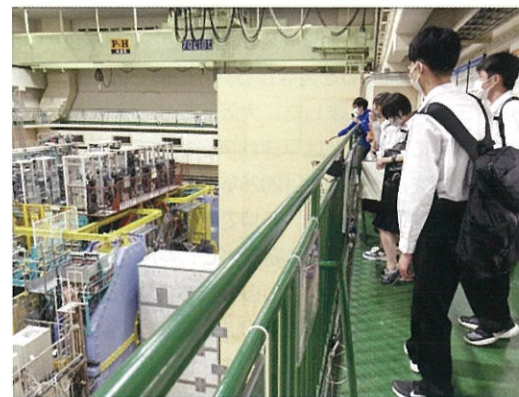
1日目は、国立科学博物館と上野周辺の見学を行い、夜は若手研究者との座談会を行いました。国立科学博物館は、「日本館」と「地球館」に膨大な数の展示物が工夫を凝らして展示しており、自然科学が好きな人が見て回ると何日もかかるころなので、見学時間2時間半では足りなかった生徒も少なからずいました。また、動物好きが集まり上野動物園にパンダなどの動物に会いに行くグループもありました。早めの夕食後は、次の日に見学に行く高エネルギー加速器研究機構で、素粒子や宇宙の秘密を解明すると期待されている未来の加速器ILC（国際リニアコライダー）の若手研究者お二人との座談会を行いました。研究内容だけでなく研究者になるまでの経緯や研究にかけた思いについて伺うことができ、貴重な経験となりました。

2日目は、国の研究機関が集まっている筑波研究学園都市にバスで移動し、3つの研究施設等を見学しました。素粒子物理学の中心である高エネルギー加速器研究機構（KEK）、世界的な材料開発・研究が行われている物質・材料研究機構（NIMS）、我が国の宇宙開発を担う宇宙航空研究開発機構（JAXA）のいずれも世界的にも有名な研究機関を自分の目で見て回ることができました。

3日目は、東京大学と東京スカイツリーでの研修でした。東京大学では4つの班に分かれて、地震研究所、工学部、医学部、薬学部の研究室を訪問しました。各研究室では、模擬授業などのレクチャーを受けたり、研究機器・設備・施設を見学したりしました。どの研修室でも東大の先生方に親切にいただきました。医学部では松江出身の先生からもお話を伺いました。

東京スカイツリーは、天気が悪く展望室(350m)は雲の中で外は白一色の世界でしたが、時折、雲の切れ間から足元の隅田川を見ることができ、雲の動く速さとスカイツリーの高さを実感できました。また、グループ毎に計画し、プラネタリウムや水族館等の周辺施設の見学も行いました。

いずれの研修先も、それぞれの分野の聖地とも呼べる場所であり、その施設に入ったり、そこを仕事場とする研究者の方と直接交流したりでき、充実した研修旅行になりました。



## 【理数科1年生 隠岐島前研修】令和4年10月6日(木)～7日(金)

島根県立松江北高等学校魅力化事業の一環として3年目となった理数科1年生隠岐島前研修を実施いたしました。「フェリーくが」で七類港を出発し、隠岐島前地区で6箇所の事業所に分かれ、研修を行いました。

隠岐牛の飼育や海藻研究、隠岐ジオパークなどの豊かな地域資源を活かす事業に取り組む方や、離島における医療に携わる方、歴史文化の継承に力を注いでいる方から離島での特色ある活動について、生の声を聴くことができました。仕事の内容を教えてくださいと、体験等もさせていただきました。

班別研修後は隠岐島前高校にて、島留学生を含む生徒との交流を通して、主体的に自己を見つめなおしたり、未来を語り合ったりして、価値観を拡げることができました。その後、隠岐国学習センターで「夢ゼミ」を体験しました。「選び、決断する」というテーマでワークショップを行っていただき、「人生での大きな決断」について、インタビュー形式で対話を深め、1日目の研修を終えました。2日目は、海士町で暮らす大人の方との座談会を実施しました。講師となった方々に、「質問」を投げかけながら、積極的に対話をすることができ、自己の生き方あり方、未来について考える素晴らしい機会となりました。「振り返り」では、研修で1番心に残った出来事をあげ、相手に「問い」（例：あなたにどんな影響を与えたのか）をプレゼントする形で松江に戻ってから「大切にしたいこと」を考えました。2日間という短い時間でしたが、多くの異なった「価値観」を持つ方々と出会い、刺激を受け、自己の普段の生活や学習への取り組みを振り返るかけがえのない研修となりました。

全面的にサポートしていただき研修に関わってくださった事業所、講師の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

